

カジノを止めた横浜市民と話そう

昨日 22 日、写真の「語らいのオープンカフェ」に参加した。主催者オープン宣言に続いて、「愛を伝えよう—絵本と出会う」として、何冊かの絵本が紹介された。とくに「へいわとせんそう」は、心に迫るものがあった。絵本を紹介したのは、淀川区の三木さん。カジノ住民投票直接請求の署名活動で知り合った。また絵本についてもお聞きしよう。

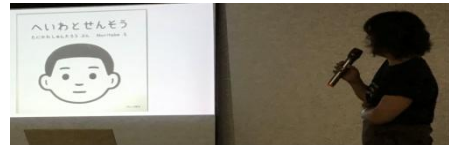
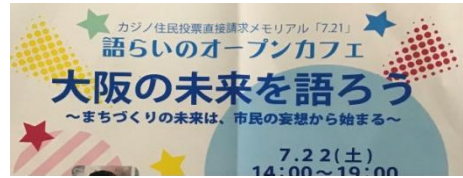
続いて、映画「ハマのドン」監督、『ハマのドン 横浜カジノ阻止をめぐる闘いの記録』集英社新書の著者であり、テレビ朝日「報道ステーション」のディレクターなどをつとめてきた松原文枝さんが講演した。IR カジノをめぐる政治の動きや「ハマのドン」取材、横浜市民の選択などについて、スライドにより生々しく語った。

講演の途中で、「カジノを止めた横浜市民と話そう」として、横浜の市民グループの 4 人の方が登場し、会場とのリモート交流が 1 時間近く続いた。昨年、住民訴訟の集いで横浜の大川弁護士講演をお聴きしたが、市民運動の第一線で活躍されている方たちの話は示唆に富むものであった。なかでも市長選に勝ってカジノを止めたあと、横浜市の政治や行政に関心を持つようになり、市議会傍聴や請願・陳情などを続けている女性の発言に注目した。

時間があれば、私も次のような発言をしたかった。カジノを止めた横浜の市民運動から学ぶことは多い。幅広い市民運動の歴史が、カジノを止める力になったようだ。大阪も「維新政治」の監視とともに、教育や環境、まちづくりなど多面的で持続的な活動が求められる。それと IR カジノの是非を問う住民投票直接請求署名運動、カジノ反対の市民運動、夢洲 IR 差し止め住民訴訟などの「成果」も、しっかり確認する必要があるのではないか。大阪 IR カジノは国が「認定」してから 100 日経つ。大阪 IR 株式会社と大阪府市は 13 日、開業判断を 9 月末まで延期する覚書を締結した。会社の担当者は、まだ工期などが決まっていないためというが、軟弱地盤の夢洲の土地対策が影響して、大阪府市との協議が長引いているようだ。事業者撤退という方向もありうるのではないか。大阪・関西万博とともに、夢洲 IR カジノにも暗雲が立ち込めている。

「大阪の水道はねらわれている!!」と題した NPO 法人 AM ネット事務局長の武田かおりさんの講演にも注目したが、残念ながらお聴きできなかった。

語らいのオープンカフェの継続を期待したい。



(2023 年 7 月 23 日)